

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話：044-988-0004(柿生中学校)  
<http://www.kakio-kyodo.com>  
 第57号

## 「塚」を訪ねて(2)

### 王禅寺東の「牛塚」を考える(1)

#### 「牛塚」に隠された謎

麻生区王禅寺東六丁目、東柿生小学校の裏手に「牛塚」という塚があることをご存知でしょうか(左写真)。今は個人住宅の庭端にあります。



「牛塚(ウツカ)」という名称は「狐塚」に比べると全国的に決して多くはありません。江戸時代の「新編風土記稿」には末長村に「牛の塚跡」という地名が見られる程度です。他県では栃木県壬生町の「牛塚古墳」、滋賀県信楽町の「牛塚山」という名称があります。牛塚古墳は前方後円墳で横から見ると牛が体を横にして寝ている姿に似ているからという説がありますが、いずれも意味はよくわかっていません。

一つ興味あることは、主に西日本に多いのですが、たとえば村単位で祀る神様で、塚や小祠(ホコラ)があってそこに牛を連れて参ったりすることがあり、「牛神講」や「牛神座」を組織して牛の無病息災を祈って「牛神」を祀る神事が行われています。横浜市鶴見区の鶴見神社では、毎年6月に行われている古くから伝わる「田祭(タマツリ)」でも神事の中に牛の面が登場しています。

牛の利用は古代においては食用、乳製品としての利用が見られましたが、仏教が広く流布しますと食用には供せられず、主に農耕や運搬用として飼育されるようになりました。一般的に牛はおとなしく扱いやすいため農業労働には早くから利用されていたものと思われます。

そうしますと「牛塚」で考えられることは、前号(柿生文化56号3面)で指摘しましたが、牛は農事と深い関係があり、「牛神」を祀るために作られた塚であったか、もともと古墳として作られていた塚を牛神の祭祀用に再利用したと考えられます。

したがって「狐塚」と同様に牛の墳墓と考えるよりは、農事に関係する牛にかかわる祭祀が行われていたのではないかということが推測されます。

さて、明治19年に調査された牛馬の飼育状況統計によりますと、東日本では圧倒的に馬の割合が多く、牛の割合が大変少ないという調査結果が出ています。牛の飼育が少ない東日本の中で、「牛塚」という牛に関係の深い遺跡が柿生に残されているということは、その背後には何か濃厚な牛との関わりがこの地域にあったのではないかということが考えられます。ならばどんな関わりがあったのでしょうか。

室町時代の康永4年(1345年)の古文書(大日本史料)に『保寧寺領武蔵国麻生郷内 本郷 堀内』の『乳牛役』について記載されている項目があります。もちろんこれは柿生に関する記述です。詳細は次号にてご紹介いたします。

参考資料：「大日本史料」「日本民俗事典」「日本地名歴史大系：栃木県」「明治21年総務統計表」(文：板倉)



シリーズ 「麻生の歴史を探る」 第27話

稲毛重成 ～小山田三郎～

小島 一也(柿生郷土史料館相談役)

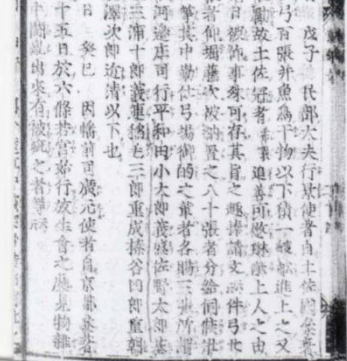
川崎の鎌倉時代の武将というと、まず思い浮かべるのは稲毛三郎重成(右図)でしょう。重成は前橋小山田有重の三男で、三郎重成と呼びました。この小山田氏の家系は桓武天皇に遡る平氏で、一族は武蔵国最大の秩父牧を支配するなど、武士団の名門であったようです。

律令制度が崩壊したこの時期、治安の乱れを武力で正す武士の力は大きく、暮らしの安定を求める農民たちは小山田氏のような地縁の実力者を棟梁とし、地域の支配者としていきます。三郎重成が親元の小山田郷を離れ、小澤、平尾、板浜、黒川、高石、細山、菅尾郷を開発、支配者となったのは安元元年(1175)頃と推測されています。

源頼朝の平家追討の旗揚げは治承4年(1180)、当初重成をはじめ秩父一族は石橋山に頼朝を攻めますが、東国には源氏の恩顧の武士は多く、権力の帰趨に敏な地方武士は平氏を見限り、小山田一族も含め競って頼朝の旗下に集まることとなります。そのことは戦国の世のこと、一族の所領さえ安堵されればよいという、当時の武士のしたたかな生き方でもありました。

小山田三郎が小澤郷のほか稲毛郷を領したのは頼朝旗揚げの前後の頃のようにです。この多摩川流域の肥沃な土地は藤原摂関家の荘園だったといわれ、平治元年(1159)の稲毛検知目録には206町歩余りの田地があったと記されています(文書:市民ミュージアム蔵)。後に55町歩余りの開拓地が加えられますが、この摂関家領には盗賊が絶えず、長寛2年(1165)にはなんと年貢(絹織物)の7割が群盗に持ち去られた(文書:市民ミュージアム)そうです。治安を業とする重成がこれを見逃すはずはなく、頼朝に味方した恩賞とともに名のみとなった摂関家荘園を支配し、その名を稲毛三郎重成としたのではないのでしょうか。

治承5年鎌倉幕府が開設に向かうと稲毛重成の活躍はめざましく、木曾義仲討伐に軍功をたて、従兄弟の畠山重忠(父どおしが兄弟)と共に一ノ谷の合戦に参加、さらに奥州藤原攻めにも加わって、鎌倉御家人に列せられます。



吾妻鏡巻7「弓の行事で褒賞」

重成は騎馬による弓矢に優れていたようです。吾妻鏡によると文治3年(1187)幕府が主催した弓の行事に弟の重朝(小山田有重の四男、棒谷四郎)とともに出場し、頼朝より弓3張りの褒賞を賜ったとあります。その絵巻の複製が市民ミュージアムに保存されています。

この重朝は鶴見川下流、現在の横浜市保土ヶ谷付近にあった棒ノ谷御厨(伊勢神宮領)の荘司で、この地を拠点に都筑郡下に勢力を持っていました。

鎌倉幕府が成立し、稲毛郷(庄)に加え新庄(川崎市中原区)の領主となった重成は、旧領の小澤郷を含め橋樹郡の支配者となり、弟の棒谷四郎(都筑郡)、出身地の小山田郷(南多摩)を併せて南武蔵国を実質支配する実力者となりました。鎌倉幕府御家人内に確固たる地位を占め、頼朝の妻政子の妹を娶ることになります。

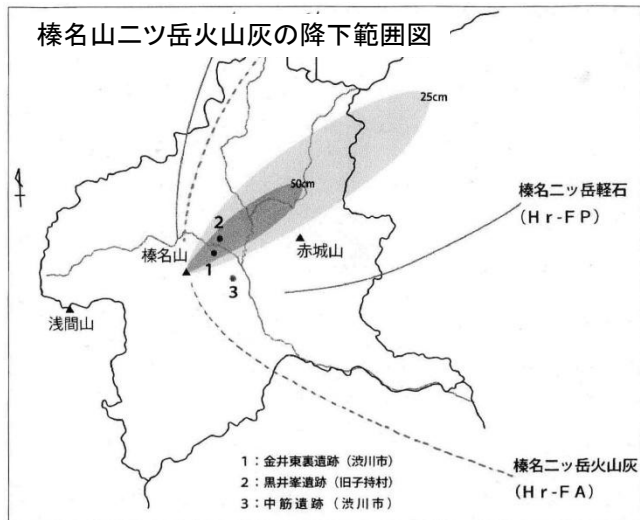
参考文献:吾妻鏡、「つわもの」どもの光と影(市民ミュージアム)、川崎市史



源平盛衰記(一の谷の合戦図) 歌川芳虎画

# 6世紀の甲(よろい)をつけた人骨発見！

## 榛名山噴火による金井東裏遺跡



昨年11月下旬に群馬県の上越線渋川駅より直線距離で約3.6<sup>キ</sup>程にある利根川支流の吾妻川のすぐ西に位置する金井中ノ町で、古墳時代後期の甲(ヨロイ)を身に付けた人骨と幼児の頭骨が発見されました。

これは、群馬県が埋蔵文化財調査中に古墳時代後期の6世紀初頭に噴火した榛名山から噴出した火砕流(高温の火山灰・軽石・岩塊などが一団となって高速で一気に斜面を流れ下る現象)により埋没したものだと思われ、甲(ヨロイ)装着の人骨は成人男性と判断され、大変良い状態で発見されました。もう一方の頭骨は生後数ヶ月の乳児のものと思われています。

古墳時代において人骨が甲を着装したままで出土したのは全国で初めてで、今後他の人骨の発見も期待されています。

いったい、火山噴火時に甲を着装した人物が何をしていたのか注目されているところです。

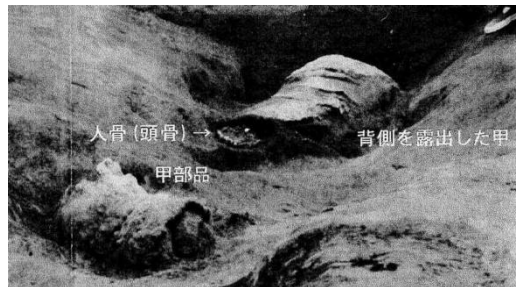
なお、この近くの吾妻郡嬭恋村鎌原の観音堂階段下から発掘された2体の人骨も、江戸時代に浅間山の火砕流によって埋まったものでした。



甲の復元図



甲と人骨の出土状況 1. 南から



2. 西から

### ＝「東海道中膝栗毛」で江戸時代の旅を知る＝

～1月6日から「実物の歴史資料展」開催～

旅は「講」「信仰」に深いつながりが

柿生郷土史料館では1月6日より「実物の歴史資料展」として第1回目は十辺舎一九の「東海道中膝栗毛」を展示しております。

江戸後期、化政文化の代表的作品で当時のベストセラーでした。皆様もよくご存じの弥次さん・喜多さん二人連れの旅を描いたもので、内容的には決して道徳的なものではありませんが、当時の旅の姿を大変よく表しています。

特に当時の旅が信仰と深いつながりがあり、柿生でもまだ残っている「講」との関係も決して見逃すことはできません。今回の展示では実物資料を公開するだけでなく、江戸時代の旅についても考えてみたいと思います。なお、実物資料の一部は手にとってご覧いただけます。こんな機会は他にありません。ぜひご来館ください。

## €€€ 柿生郷土史料館開館日のご案内 ☺☺☺☺☺☺☺☺

◎開館日：奇数月は日曜日、偶数月は土曜日

**2月** 2・9・16・23日(毎土曜日)

**3月** 3・10・17・24日(毎日曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

## €€€ 柿生郷土史料館2～3月の催物のご案内 ☺☺☺☺☺☺

### 第1回 実物の歴史資料展

(入場無料)

とうかいどうちゅうひざくりげ

## 「東海道中膝栗毛の世界」十辺舎一九 著

弥次郎兵衛と喜多八の旅姿を実物資料で見て江戸時代を体感!!

公開日：1月：6・13・20・27日(日曜日)及び2月：2・9・16・23日(土曜日)

### 第2回 実物の歴史資料展

(入場無料)

さんとうけい

## 「『養蚕計(養蚕用の温度計)』とシーボルト」

- ・ 幕末、養蚕業にとって画期的な発明に『養蚕計』があります。この発明のヒントがシーボルトの体温計でした。公開されるものは、温度計にさらに湿度計が装備された幕末から明治期のものと思われます。
- ・ 公開日：3月3・10・17・24日(日曜日)

### 第38回 カルチャーセミナー

(入場無料)

## 「横穴墓の線刻画を絵解きする」 ～麻生区周辺～

- ・ 講師：村田文夫氏(日本考古学協会会員)
- ・ 日時：平成25年2月23日(土)午後1時30分～3時30分
- ・ 内容：柿生周辺から数多く発見された横穴墓に描かれた線刻画は果して何を物語るのか。講師の経験からその謎を解く。

### 第39回 カルチャーセミナー

(入場無料)

## 「中世の柿生・岡上の戦国時代」

- ・ 講師：中西望介氏(戦国歴史研究会会員・元川崎市文化財調査員)
- ・ 日時：平成25年3月24日(日)午後1時30分～3時30分
- ・ 内容：\*中世末期、柿生・岡上はいったいどんな様子だったのか。  
\*後北条氏との関係、地域の有力者小島佐渡守の立場は、小島家所蔵の豊臣秀吉朱印状とは何を意味するのか?その謎を解き明かす。